

厚生労働科学研究費補助金
(循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業)
総括研究報告書

循環器救急疾患に対する救急医療現場の連携推進のための課題抽出と
専門医間の連携構築を目指したガイドブックの作成
研究代表者 野口 暉夫 国立循環器病研究センター 副院長

研究要旨

「プレホスピタルケアのための脳卒中・急性冠症候群・急性大動脈解離ハンドブック」を作成し、脳卒中病院前救護における「主幹動脈閉塞の脳卒中スケールプロトコル」およびプレホスピタル12誘導心電図を用いた「急性冠症候群診断プロトコル」をそれぞれ提案した。

研究分担者氏名・所属研究機関名及び
所属研究機関における職名

的場 哲哉
九州大学
大学病院 講師

飯原 弘二
国立循環器病研究センター
病院・病院長

石津 智子
筑波大学
医学医療系循環器内科・准教授

坂本 哲也
帝京大学医学部
救急医学講座・教授

榎本 由貴子
岐阜大学医学部附属病院
講師

荻野 均
東京医科大学病院
心臓血管外科学分野・主任教授

田原良雄
国立循環器病研究センター
心臓血管内科・医長

小林 欣夫
千葉大学
大学院医学研究院・教授

西村 邦宏
国立循環器病研究センター
予防医学・疫学情報部・部長

松丸 祐司
筑波大学
医学医療系脳神経外科脳卒中予防・治療学（寄付）講座・教授

有村 公一
九州大学
医学研究院脳神経外科学・助教

堀江 信貴
広島大学
脳神経外科・教授

山上 宏
筑波大学
医学医療系脳卒中予防・治療学・教授

北園 孝成
九州大学
大学院医学研究院・教授

永吉 直美
国立循環器病研究センター
看護部 CCU・看護師長

菊地 研
獨協医科大学
医学部・教授

松尾 龍
九州大学
大学院医学研究院・准教授

A. 研究目的

急性心筋梗塞・大動脈解離・脳卒中の治療には病院選定と到着後の迅速な治療が必須である。本研究は、全国消防本部と連携した全国アンケート調査から、①連携遅延の原因抽出と改善点の提言、②プレホスピタル12誘導心電図および脳卒中病院前救護の現状調査を行う。この現状調査を通して、③病院前システム遅延の原因抽出を行う。さらに、④総務省消防庁による全国救急搬送データと急性期医療機関情報の連結に関する検討を行う。また、⑤初期診療医と専門医の連携に関する現状把握のための文献システマティックレビューと救急隊、看護師、初期対応医を対象とした循環器救急疾患に対する救急医療現場と専門医の連携推進ガイドブックの作成を行う。

B. 研究方法

救急隊、看護師、初期対応医を対象とした循環器救急疾患に対する救急医療現場と専門医の連携推進ガイドブックの作成

(倫理面への配慮)

本調査は個人情報を取り扱うものではなく、該当しない。

C. 研究結果

救急隊、看護師、初期対応医を対象とした循環器救急疾患に対する救急医療現場と専門医の連携推進ガイドブックの作成：本研究の最終成果物である「プレホスピタルケアのための脳卒中・急性冠症候群・急性大動脈解離ハンドブック」を作成した。本ハンドブックにおいて、全国地域メディカルコントロール協議会に対して、「主幹動脈閉塞の脳卒中スケールプロトコル」、および「急性冠症候群診断プロトコル」を提言した。

D. 考察

「プレホスピタルケアのための脳卒中・急性冠症候群・急性大動脈解離ハンドブック」において、全国地域メディカルコントロール協議会に対して提言した「主幹動脈閉塞の脳卒中スケールプロトコル」および「急性冠症候群診断プロトコル」は、全国一律の普及は難しく、医療資源の充実度の異なる各地域の特性を踏まえて改変して運用していくことが望ましいと考える。

E. 結論

本研究の最終成果物である「プレホスピタルケアのための脳卒中・急性冠症候群・急性大動脈解離ハンドブック」を作成し、脳卒中病院前救護における「主幹動脈閉塞の脳卒中スケールプロトコル」およびプレ

ホスピタル12誘導心電図を用いた「急性冠症候群診断プロトコル」をそれぞれ提案した。

本研究の結果は脳卒中・急性冠症候群・急性大動脈証症候群に対する急性期医療の質の向上及び均てん化に資するものと考えられる。

F. 健康基本情報

(総括研究報告書にまとめて記載)

G. 研究発表

1. プレホスピタルケアのための脳卒中・急性冠症候群・急性大動脈解離ハンドブック。厚生労働科学研究費補助金(循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業)循環器救急疾患に対する救急医療現場の連携推進のための課題抽出と専門医間の連携構築を目指したガイドブックの作成

2. 学会発表

なし

(発表誌名巻号・頁・発行年等も記入)

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし